

2019年10月推薦図書

【スポーツ科学部 日吉 秀松先生】

『動物農場 新訳版』 ジョージ・オーウェル著/山形浩生訳 早川書房 2017年

いまこそジョージ・オーウェルの『動物農場』を読むべきだ

豚を中心にして、動物だけの平等社会を目指す革命を起こし、荘園農場の経営者ジョーンズを追放した。革命が成功した後、豚の内部は権力闘争が起こり、野心的なナポレオンが主導権を握り、残酷な独裁者となった。結局は、豚が新たな特権階級として動物農場に君臨し、恐怖政治を通じて全体主義体制を確立し、本来、動物たちが目指した平等の社会がやがて崩壊し、かつての荘園農場よりも過酷な社会となってしまった。最後に動物たちはまた蜂起した。これはイギリス作家であるジョージ・オーウェルによって書かれた全体主義への批判する政治寓話『動物農場』である。この政治寓話を読むと、現実の世界と照らして社会主義革命や権力の本質について考えさせられる。